2017年 日独経済シンポジウム 水内総領事 ご挨拶
(日独同時通訳)

2016年5月22日(月)

於：インターコンチネンタルホテル

(冒頭)

まずはじめに、本日の日独経済シンポジウムの開催にあたり、ご講演者の皆様、主催・協力機関の方々をはじめ、1年以上にわたり精力的に準備を進めてこられた全ての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

日独経済シンポジウムは、「日本デー」の一環として、NRW州、デュッセルドルフ市及び当地日本人社会の共催で2002年以降毎年開催されているものであります。土曜日の「日本デー／文化市民交流祭」が文化面の交流であるのに対し、本日の日独経済シンポジウムは、世界が直面する経済的・社会的な重要課題について、日独間の協力のあり方を真剣に話し合う場となっており、ドイツ国内における最大規模の日独経済関連のイベントとして定着しております。

(日独関係)

日独両国は、民主主義、基本的人権、法の支配といった基本的価値を共有する成熟したグローバルパートナーです。経済分野においても、ものづくりを中心に戦後急激な経済発展を遂げ、科学技術やイノベーションで世界をリードするなど、多くの共通点を有しております。

本年は、日独間のハイレベルな交流が盛んに行われています。本年2月にはボンでG20外相会談が開催され、岸田外務大臣が日本の外務大臣として18年振りにNRW州を訪問いたしました。その際、デュッセルドルフにも立ち寄り、クラフト州首相とも会談を行い、当地における日独交流の重要性を確認いたしました。また、3月にハノーファーで開催されたCeBITでは、日本がパートナー国となり、安倍首相も来独しました。その際、世耕経産大臣・高市総務大臣とツィプリス連邦経済エネルギー大臣との間で、第4次産業革命に関する日独協力の枠組みを定めた「ハノーファー宣言」に署名しました。4月には、デュッセルドルフでG20デジタル大臣会合が開催され、松村経産副大臣と金子総務大臣政務官が当地を訪問いたしました。更に、7月にはG20ハンブルグ・サミットが開催されます。

世界情勢が混沌とする中、日独両国は安定したパートナーとして益々重要性

を増しております。

（当地における日本社会）

そのような重要な日独関係の中で、長年最大の日本人コミュニティ・日本経済の一大拠点になっているのが、ここ NRW 州であります。今年は総領事館の50周年を迎えます。そのような記念すべき年の日独経済シンポジウムで挨拶できることを大変光栄に思います。

（今年のテーマ）

本年の日独経済シンポジウムのテーマは、「企業連携とイノベーションーデジタル化・グローバル化の進む経済における新たな成功戦略」です。新興国の台頭・グローバル化の進展により、企業の国際競争は激しくなっております。先程、NRW 州は日本経済の拠点と申し上げましたが、当地における日本企業の優位性も安泰では無いかもしれません。そのような中で、日本企業が生き残っていくためには、新たなイノベーションにより技術力で世界をリードし続ける必要があります。しかし、デジタル化の進む経済において、課題はより複雑になり変化のスピードも速くなっております。そのような状況下で、企業間、企業と研究機関、企業と大学など、様々な連携を通じた研究開発の重要性が増しております。

経済のデジタル化・グローバル化が進んでいることに異を唱える人はいないと思います。本日のシンポジウムでは、様々な企業のケーススタディ等を通じて、そのような経済で成功するための一つの答えを議論して頂きたいと思っております。

（結び）

それでは、本日のシンポジウムが参加者の皆様にとって実りおおいものとなることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。